

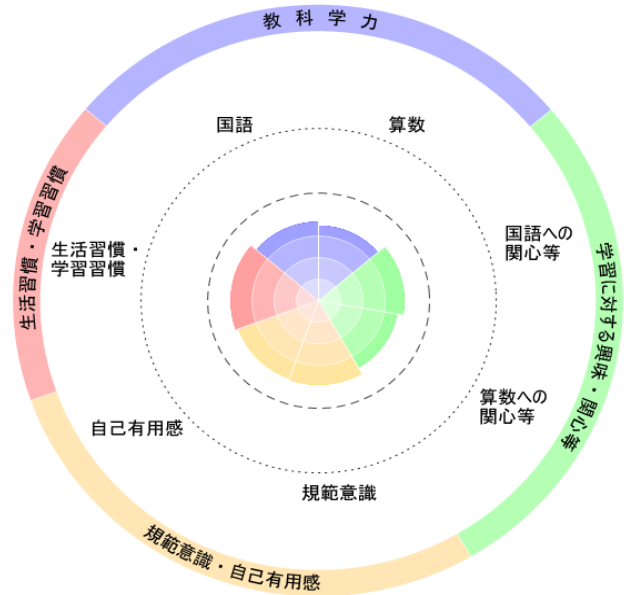
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○「話す・聞く」や「言語についての理解」に比べて「書く」の観点の問題は正解率が高い。(全国や県の平均との差が小さい) ○選択式の問題は、他の質問形式に比べて、若干正答率が高い。 ●「漢字を書く」問題での正答率がかなり低い。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。」問題で、正解率が低い。また、無回答率がかなり高い。	・当該学年で学習した漢字は、その学年で身に付けることができるようにする。そのために習った漢字を使って文章を書く機会を増やし、ミニテスト等で定着の様子を常にチェックするようにする。 ・初めて出会った文章を抵抗なく読むために、様々な文章に触れ、読む機会を増やしていく。また、読んで知ったこと、感想などをアウトプットする機会を意図的に教員がしかけることで、書く機会も増やしていく。
算数	○他の領域に比べて、図形領域の問題の正答率が若干高い。 ○基礎的・基本的な計算の能力はついている。 ●与えられた資料から必要な情報を選択し、立式し、解いて行くような問題で正答率が低い。また、無回答率も高い。 ●示された計算の仕方を解釈し、計算しやすい形にして計算する問題で、大きく正答率が下回った。立式はもちろん、式の意味理解も不十分だと考えられる。	・帯学習の時間帯を利用して、類題に触れる機会を意図的に設定し、文章題への抵抗をなくすことができるようにする。また、同時に基礎基本の計算能力の定着も目指していく。 ・既習の事項であっても、定着が十分ではないものは、毎月行っている「計算オリンピック」等で問題に触れることで、つまづきを把握し、振り返ることができるようにする。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
	○地域行事への参加が意欲的である。 ○学級での話し合い活動はできており、その中で自分の考えを深めたり、広げたりすることもできている。 ●家庭学習の習慣が定着していない。家で計画的に学習している児童の割合が低く、家庭での学習時間が県や全国の平均と比べて、かなり少ない。 ●外国語、国語が好きと答えた児童の割合がかなり低い。また、学習したことを普段の生活の中で生かそうとする割合も低い。	・家庭学習に関しては、個別支援が必要な児童が多く、児童と保護者の両方に継続した呼びかけを続けていく。また、宿題のやり方や自学の例などをこまめに児童に伝えることで、学習習慣の定着を図っていききたい。 ・国語科や外国語で児童の意欲を引き出すためには、教材研究はもちろんだが、学習へ向かうために教室環境を整え、温かい人間関係作りをしていくことも必要だと考えている。

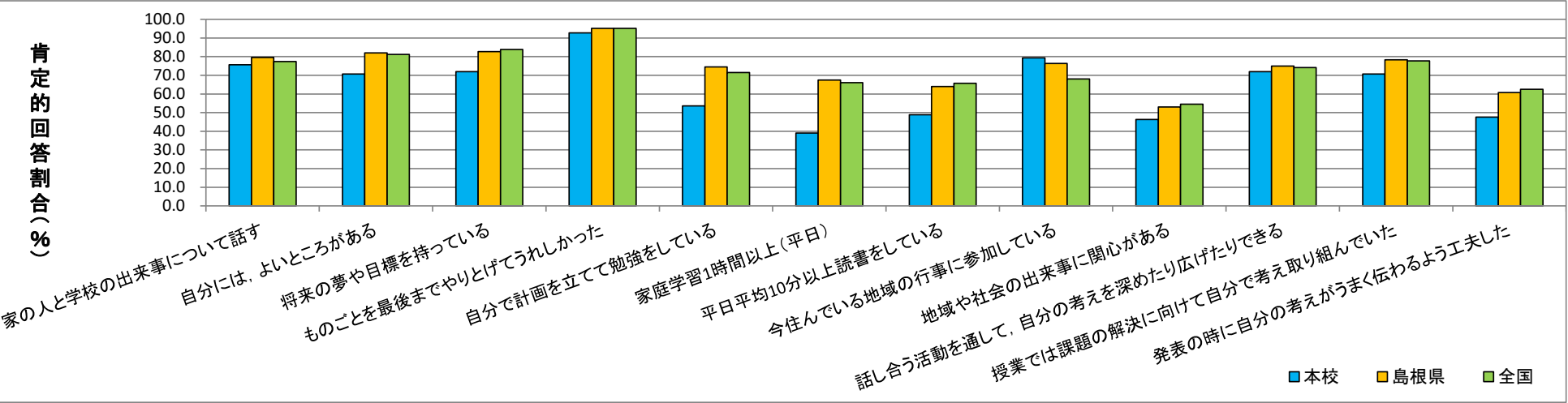
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・今回、意識調査を見ると、読書時間が少なく、読書への意欲も低かった。また、国語の結果からも「読む」については十分ではない。学校司書や司書教諭を中心に全校あげて図書館教育の充実を図ってはいるが、今後もさらに力を入れて取り組んでいく。
・テスト形式に慣れていないこともあり、問題文を読むスキル(問題文の大切なところに線を引く。キーワードとなる言葉を見つけながら読む。)を指導していく必要がある。普段の授業の中で、課題読みをしたり、決められた時間の中で課題を解くといった経験もできるようにしていく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	51	63	62	63.8
算数	55	66	65	66.6

受検者数 77 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。